

「2006 年：米州の功労者ベニート・ファレス・ガルシア生誕 200 周年」

連邦区トラテロルコ、2006 年 4 月 1 日

日本国外務大臣
麻生 太郎 閣下

拝啓 麻生大臣 殿

ビセンテ・フォックス大統領と小泉純一郎総理大臣は、墨日二国間関係に潜在する大きな可能性に確信を抱き、政治、経済、文化、教育、科学技術の各分野で絆の強化をめざす濃密なプロセスを推進してまいりました。

メキシコ日本経済連携協定の発効 1 周年を迎え、二国間貿易の拡大と日本の対墨投資増大に象徴される直近の成果がきわめてポジティブであることを知り、欣快至極に存じます。同協定を交渉し、締結した決断の適切さが、正に、実証された次第であります。

同時に、二国間の政治対話も、緊密且つ着実に、ハイレベルで実施されております。フォックス大統領と小泉首相の首脳会談、大統領と皇太子殿下との会談、小生が貴国を訪問させていただいた 2005 年 9 月の外相会談などが記憶に新しいところであります。外交政策上の見解一致も重要な案件で存在しており、意見交換と共同作業が両国に恩恵をもたらしております。最近の具体的事例としては、人間の安全保障に関するセミナーの共同主宰が、先の 2 月 9 日と 10 日の二日間、メキシコ市で実現しており、メキシコと日本はこの重要なテーマに関する国際的な議論を促進することで協力しております。

両国を隔てる距離を縮めようとする文化的アプローチも前進を続けております。2005 年 9 月にメキシコ市で開催された第 1 回墨日文化サミットの成功は、本年 7 月に金沢市で開催が予定される、この独創的イニシアチブの第 2 回会合に対する大きな期待を生んでおります。学術および教育面での交流プログラムは 50 年以上も前に始まっており、今日に至るまでその強化が続いております。

二国間関係は両国民間に存在する真の共感(シンパシー)に立脚しております。また、両国の政府と国民社会は、デモクラシーや人権尊重などの基本的価値観を共有しております。メキシコと日本は、長期的な展望の下に、パートナー国、友好国、さらに同盟国として、連携することを決断いたしました。この戦略は、互いの社会に有益であります。そのポジティブな効果は長期的に継続されることでしょう。

両国間に存在する友好関係の強化に賜る貴殿のご関心に感謝いたしつつ、貴殿に対する深甚なる敬意を重ねて表明いたします。

敬 具

大 臣

(署 名)

ルイス・エルネスト・デルベス・バウティスタ